

足ることを 知る心こそ  
宝船 世をやすやすと  
渡るなりけり

脇坂 義堂

わきさか ぎどう  
裏面もご覧ください。

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」  
うるわ

満足を知ることとは、

とても尊いことである。

そうすれば世の中も、

たやすく渡ることができる。

『五用心慎草 下之巻』  
ごようじんつしみくさ

脇坂 義堂

江戸時代後期の心学者。

石田梅岩の弟子である手島堵庵てしまとあんに  
学び全国を遊説するも、一時は堵庵に  
破門される。その後、人足寄場な  
どで講義を行うとともに、地方でも  
積極的に遊説を行ったことから、破  
門を解かれ、石田梅岩先生門人簿に  
載せられた。

神道知識の誘ひ「万葉仮名」  
いざな まんようかな

『万葉集』が整えられた頃には、平  
仮名も片仮名もありませんでした。  
その為、言葉や文字を書き表すに  
は漢字の意味に相当する言葉をあ  
てて読んだり(訓)、漢字の字義を  
無視して音のみを借りたり、様々  
な工夫をして書き表しました。  
これを『万葉仮名』と言います。  
『万葉仮名』がやがて仮名文字に発  
展しますが、極めて複雑な用字法  
のために、読み方が分らなくなっ  
た時期もあります。現在も神事の  
中で神職が神様に奏上する祝詞も  
『万葉仮名』で書かれています。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>

